





審査結果報告書

平成 30 年 1 月 31 日

主 査 氏 名 小 泉 和 三 郎 

副 査 氏 名 佐 藤 之 俊 

副 査 氏 名 小 下 拓 

副 査 氏 名 山 村 正 嗣 

1. 申請者氏名 : DM14003 石井 智

2. 論文テーマ :

The H19-PEG10/IGF2BP3 axis promotes gastric cancer progression in patients with high lymph node ratios

(H19-PEG10 / IGF2BP3 axis は高度リンパ節転移比を持つ患者における胃癌の進行を促進する)

3. 論文審査結果 :

胃癌は世界的に男性 3 位女性 4 位の死亡率である。TNM分類は重要な予後因子であるが、さらに再発リスクの高い患者を予測するバイオマーカーの開発は臨床的に大変重要である。

申請者らはすでにリンパ節転移比 (Lymph node ratio ; LNR) を解析し、胃癌患者における独立した予後因子であることを報告している。申請者らは LNR の検証を行い、カットオフ値を 16.7% として高 LNR 患者と低 LNR 患者間における有意な予後的意義を見出した。最終的に予後を規定しうる 5 種の高 LNR 関連候補遺伝子を選別し、その中から H19、PEG10 及び IGF2BP3 が特に高 LNR 関連遺伝子として同定された。また、胃癌細胞株に対し H19, PEG10 knockdown を行い、細胞増殖、浸潤、生育を減少させ、docetaxel の薬剤感受性を高め、細胞活性を減少させたことを証明した。

この研究は今後の胃癌治療における予後予測のみならず、新たな治療標的の開発にも期待がもたれる。医学博士の学位論文として高く評価される内容である。